

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901514		
法人名	有限会社 神居寿々蘭の里		
事業所名	グループホーム 喜		
所在地	旭川市高砂台8丁目3番10号		
自己評価作成日	平成25年12月9日	評価結果市町村受理日	平成26年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、家族様との信頼関係を気づき利用者様が自分の家の延長として安心、安全に生活が送れるように取り組んでおります。特に利用者様が自立した生活ができるよう、またご家族様に安心して任せられるように努めております。ご家族様には毎月「日常生活」・「通院記録」「身体の状態と今後の支援」「不定期の喜たより」にまとめケアマネジャー・介護職員の視点で観察して家族に報告しております。また四季折々の行事には家族や地域の方々の皆様も交えた行事を行なって、利用者様や家族様との交流を深めております。食事に於いても栄養バランスに気をつけながら自然の食材を使いながら利用者様に提供しております。また運営推進委員会の皆様の意見を参考にして改善に努めて参ります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2013\\_022\\_kani=trou&JigyosyoCd=0172901514-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=trou&JigyosyoCd=0172901514-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 1 月 22 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームはホテルを改装し、旭川市内の四季の移り変わりを見渡せる高台にあります。居室は13畳から20畳と大変広く、仏壇・タンスはもとより以前の生活用品がほとんど持ち込み、暮らしの継続ができるようになっております。入居者の一番の楽しみである食事は「手作り」を基本としており、梅漬けやニシン漬けも自家製で野菜も知り合いの農家から無農薬野菜を調達しています。野菜不足になりがちな冬場も雪室に大根を千本以上埋けたり、大型冷凍庫を利用するなどして食材提供に努めています。地域の方々とは運営推進会議だけでなく、市内を見渡せる大きなテラスを利用した花見や花火にと活用してもらっています。また同様に夏祭りや焼き肉パーティなども楽しく交流しています。昨年大幅な職員交代があり、全職員が新たな気持ちで目標に向かって張り切っている様子がうかがえ、今後の活躍に大きな期待を感じさせてくれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護理念に基づき地域の皆様との交流を大切にをモットーに職員が一丸となって取り組んでいる	毎朝朝礼時に全員で唱和しています。日々のケアの中でも反映されているかを常に検討しています。ホームと地域との関係を重視した理念も運営推進会議や行事だけでなく散歩や外出を通して意識付けるようにしています	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事に参加していただくのはもとより地域の行事にも積極的に参加している。又、施設の遊休地の活用を検討している	大きなテラスを利用し、花見や花火見学など地域の方々と一緒に楽しんでいます。夏祭りは地域の方々だけでなく多くのボランティアの方にも来てもらい、大きなイベントとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症に関する理解を深めてもらう取り組みを行っている。パンフレット、リーフレットを作成して近隣の町内会に配布している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を施設行事に合わせて開催し参加頂く事で積極的に意見をとり入れ施設の運営に反映している	年間計画を立て市職員・地域の方々・家族の参加の下、ホームからの報告だけでなく参加メンバーからも質問やアイデアを出し合い双方向的な会議にするようにしています。時には朝礼時に参集願ひ、職員の取り組みを見てもらっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当部署とは常に連帯を密にし又、介護高齢課の担当者には運営委員として参加頂いており情報交換を行っている	市職員の定期訪問の際、相談をするなど連携を深めています。また3カ月毎に地域包括支援センターと神居地区にあるグループホームが合同の勉強会を開催しています。情報交換することで独りよがりにならない介護に努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠については入所時に家族との話し合いで合意をいただいているその他については身体拘束廃止検討委員会で検討し、対応している	家族の同意をいただき施錠していることが多い状況にあります。ただし、利用者の外出希望を直ぐ察知し、一緒に出かけるなど安全面に配慮した暮らしをしています。「もっとサービス向上委員会」という名の勉強会にて権利擁護や身体拘束防止について職員の共有認識を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士でお互いに防止に努めている（特に言葉による虐待に注意している） 本人が気づいていない事がある 研修、勉強会等に参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	旭川GHケア研究会での研修等を参考に身上監護や財産管理には注意を払っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設の説明は施設見学時及び契約時に契約書及び重要事項に基づき詳しく説明し納得を得ている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月利用者様の近況を報告、又家族会・面会時・各種行事の参加時に意見要望をいただいている	家族会も設置され、年一回総会が開催されています。また、訪問時にも気楽に声をかけてもらえるよう雰囲気づくりに留意しています。家族から出された意見や要望は「もっとサービス向上委員会」を通じて話し合い、ケアに反映できるようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼時に報告又は意見を聞き、月末には職員会議を行い意見を聞き運営に反映している	職員会議やユニット会議だけでなく日頃からコミュニケーションをとって直ぐ話し合いができる体制を構築しています。話し合われた内容は全員が把握できるよう議事録を通して確認し、職員全員で関わりを持つことでサービスの質の向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて個別指導・資料提供・各種の研修の情報提供又有給等の配慮を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修会に積極的に参加できるよう、勤務体制等に配慮を行っている 又、関係図書の情報提供を行っている 毎月末の職員会議に勉強会を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旭川GHケア研究会や神居地区のGH研究会又複数事業所と合同の研修を受講し意見交換や交流を行っている。又、各施設の体験研修を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の経歴や生活歴を細かく知ることにより、コミュニケーションを取り要望や不安なことを受け止め努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係はこまめに利用者様の情報を伝え要望を聞く対応が出来るかだと考える 家族の面会時に相談や要望を聞き、利用者様の状態を伝え信頼関係を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様のアセスメントを行い必要とする支援を職員・家族・医師との話し合い対応を進めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いを助け合いながら生活していることを意識し、共同作業を一緒にして信頼関係を築く事を心掛けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を大切にし、利用者様と家族の交流が出来るような関係を築けるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもとよりこれまでの交流のあった方へ各種行事にも参加を呼び掛けている 又地域の方々にも施設へ立ち寄りやすい環境作りに努めている	各種行事には家族だけでなく多くの方々に参加を呼び掛け、訪問してもらい、楽しさを共有してもらっています。一月に一回知人等へ会いに行かれる方もおり、同行支援も行なっています。地域の方々にも気軽に訪問してもらえるよう散歩や外出時は積極的に声かけを行なっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を職員が把握して利用者様同士が気楽に話し合える様に配慮している (席替え・レクリエーション・談話室の利用)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された家族であっても希望者には施設の各種行事への参加を呼び掛けを行っている			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	無理強いをせず思いや意向を把握し、意思疎通が困難なときは家族からの情報提供をいただいている	MDS方式によるだけでなく、日々のケアや関わりの中で声をかけ、把握に努めています。意思疎通の難しい方からは家族や近しい人たちから情報を得るようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から本人との会話を十分に行うことはもとより家族からも情報をいただいている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方のリズムを早く把握するためこれまでの生活状況、個々のリズムを把握して、関係者から聞き取りを行う			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況を職員会議等で打合せし、家族の意向を聞き入れ、全員で話し合い、現状に即して計画作成をしている。特に担当職員が中心となり作成している	職員会議や申し送りの他に日々の気づきや家族からの意見も参考にして計画作成を行っています。現在日々の記録の横にケアプランを挟め、書式の検討をし、連動できるよう試行錯誤しながら、現状に即した介護計画作りを作成中です。	本人・家族の状況は変化しており、現状(日々のケア)と介護計画が乖離しないように現状に即した介護計画の作成を期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況については個人ファイルに記録し特記事項については朝の申し送りで報告し情報の共有を図り介護に活用している			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設の立地条件や広さを生かしたサービスの提供に取り組んでいる。通院、散歩、買い物、訪問入浴、新たにマッサージの支援を行っている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	恵まれた生活環境を有効に活用し安全に安心して日常生活を送れるように支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの病気や主治医との関わりを密にして気軽に相談できる関係づくりに努めています。特に医師から直接治療方針を得て本人の回復に努めている	本人の希望するかかりつけ医へ受診しています。また郊外ということもあって協力病院のバスによる送迎支援もあり、常に状態変化に応じた支援を行なえるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	並木通りクリニック、ピクトル歯科や訪問看護体制による週1回の訪問と24時間体制での相談対応で適切な支援を行っている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通しての入院であり病院の関係者との関わりは非常に良好で細かな事でも相談できる状況にある			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所前に終末医療について十分に話し合いを行っており施設で出来る範囲を確認している 又、家族が希望すれば医師、家族、施設で話し合い終末医療の対応も可能である	早期から話し合い、状況変化の度に話し合いを繰り返しています。看取り介護の指針も整備され、ホームができる最大限のケアについて説明を行なっています。広い居室であるだけに家族と一緒に介護していくことも可能となっています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応の訪問看護ステーションの活用や職場内研修を行い知識取得に努め方が一に備えている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害の避難訓練を年2回実施し対応できる体制作りに努めている 又、運営推進委員等地域にも協力体制をお願いしている	年二回町内の方々にも協力いただき避難訓練を行なっています。避難経路図も作成され、職員は役割分担の中で、自分は何をすべきかを確実に履行できるようにしています。	災害も火災だけに限らず、地震・停電に備えた具体的な対策が必要です。特に寒冷地である当地区に於いては暖房の確保が必須であり、それらの備品の整備に取り組まれることを望みます。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個人の性格を十分に理解し、お互いにコミュニケーションを取り合える関係作りに努めている 特に利用者さんの話をよく聞き尊重している	呼称は入居時に本人・家族を交え相談しています。理念でもある人格の尊重に対して日々のケアの中で、自問自答しながら随時全職員間で確認し合うようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から入居者様と信頼関係を築きお互いにコミュニケーションととり、希望を理解できるように努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の視点に立った介護を心掛けている 利用者様の希望、要望を聞き、本人のペースで生活できるように介護している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に沿った身だしなみを心掛け毎朝身だしなみのチェックを行っている 月1回訪問理容を利用して美容に配慮している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の食材を収穫したり調理をしながら季節感を十分に味わってもらえる様に努力している 又、食事の色合いにも気を付けています 年間行事にはお節料理、彼岸の三色おはぎ、お赤飯等の食事で楽しんで頂いている	ホームのモットーでもある「手作り」を心がけ、また無農薬野菜など新鮮なものの提供に努めています。行事食なども数多く取り入れるなど場面づくりの工夫もしています。また咀嚼や嚥下の難しくなった方にもゼリーなどを使って楽しめる工夫を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通常の食事量や水分量については把握しており必要に応じて対応している。栄養バランスについても主治医に相談している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔のうがいや義歯洗浄を食後に行い常に汚れや匂いが生じないように支援している 入れ歯は夜間に洗浄液につけている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄リズムを知る事により、トイレでの排泄がスムーズに出来るように又自立排泄に向けた努力を行っている	排泄チェック表を使用していますが、自立している方が多く、トイレ誘導も数人に声をかけ仲間同士で行ってもらうなどさりげない支援を心がけています。トイレでの排泄を大切にしていますが、夜間はポータブルトイレを設置する方もいるなど本人に合わせた対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に注意して、日中はラジオ体操や適度な運動をして予防している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回と決めているが体調や気温、通院等の状況を考慮している	入浴は火曜日と金曜日と決まっていますが、本人の状況に合わせた対応をしています。家族と一緒に日帰り温泉を楽しまれている方もいます。入浴を拒む利用者には仲の良い人と一緒に利用してもらうなど色々工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握して安眠して頂けるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が個々の服薬の状況を共有し、直接口に入れ完全に服薬したことの確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を熟知し、日常生活の中でそれを活用しお手伝いや遊び、レクリエーション等に活用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には施設周辺の散歩や近所の公園にも出かけている 又、利用者の希望により近くの商店へ買い物等に出かけている	環境に恵まれていることもあって夏場は毎日散歩に出かけるようにしています。寒い時期は移動販売車が定期的に訪問してくれ、楽しみ事の一つとなっています。また外出行事計画もあり、その中の「百均ツアー」は大変好評です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品の出張販売で自ら買物していただいている 出来ない人には職員がお手伝いしている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの手紙を確実に手渡している 又電話等の依頼があれば外部との連絡できるようにお手伝いしている			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋からの展望は市内が一望でき、四季折々の景観が楽しめる又、食堂や娯楽室は入居者同士の交流の場として安心して過ごせるように工夫している 廊下等の空間を飾り付け写真の展示を行いいいこの場としている	共有空間では懐かしい映画の上映会を開催するなど、居室に引きこもらない工夫をしています。理美容室もあり、洗髪も移動することなく行なっています。喫煙室も設けるなど、愛煙家への支援にも配慮しています。広々とした廊下は歩行訓練の場にもなり、その壁に貼られている写真やまた向かい側の大きな窓から見える市内を眺めながら楽しくリハビリすることができています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室、喫煙室、談話室を活用して気分転換が出来るように配慮している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋の広さを活用し自分なりに好きな様に家具を配置したりして居心地の良い空間づくりをしている	居室は13畳～20畳と広く、今までの生活用品を持ち込むことができ、違和感なく過ごすことができます。居室にも大きな手すりが設置されており、出入りが安全に行なわれるよう配慮されています。大きな窓は少し低めに造られており、旭川市内を眺めることができるとともに、四季を常に感じる事ができています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内に手すりを設置し自由に安全に行動できる様に配慮している フラットで無駄な物を廊下に置かず安全に配慮している			